Ｎｏ．２【２０１２年４月１３日配信】

青森町の誕生（担当：竹森）

皆さん、はじめまして。市史編さん室で去年から嘱託員を務めさせていただいております、竹森と申します。今回は第２回目ということで、青森町が誕生するきっかけとなった一つの出来事について紹介していきます。

４月に入り、皆様は気持ちも新たに新生活に邁進していることと思いますが、青森市の歩みを振り返ると、江戸時代、青森町の町づくりが本格的に始まったのも４月であったと言えます。

今から390年ほど前、寛永３年（1626）の４月６日は、弘前藩２代藩主津軽信枚（つがるのぶひら）が家臣の森山弥七郎（もりややしちろう）に、青森の町づくりと、青森への積極的な人集めを命じた日です。

油川浄満寺にある森山弥七郎の供養碑

供養碑の解説板

弘前藩は当時、同藩の江戸藩邸で消費する米を江戸へ送るための新たな湊を、外浜（そとがはま）の地に開くことを決めていました。その開港地に選ばれたのが、おおむね現在の善知鳥神社から堤川までの地域で、信枚はこの地域に湊を建設するだけでなく、同地での大規模な町づくりを計画しました。その指揮を森山に一任したのがこの日であり、のちにこの町は青森町と呼ばれることとなります。

これ以降、青森は湊を中心として発展していき、のちには城下弘前に次ぐ人口が集まる大都市へと成長していくのです。

青森港旅客ターミナル付近から見た現在の青森市